

■大学院 文学研究科 日本文化専攻

教育研究上の目的
大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院（以下「本大学院」という。）は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。
修士課程においては、日本歴史、日本文学、日本語学の研究を中心に、古代から近・現代に至る歴史や文学、日本語・日本文化の諸問題を横断的、総合的、かつ個別的に研究し日本文化の独自性と多面性について、実証的に研究する。また、教育機関で活躍できる人材を育成することを目的とする。博士後期課程においては、修士課程でつちかった実証的な研究をより高め、さらに専門的な知識、思考力、分析力の涵養を目指す。また、研究者や高度な専門分野に従事する能力を養うことを目的とする。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた大学院生に「修士（日本文化）」の学位を授与します。 1. 日本文化に関する幅広い視野と見識を獲得している。 2. 史資料批判能力や実証的な論証の技術を身につけている。 3. 日本文化の諸事象に対して独自の判断・評価を行い得る人材である。 4. 日本文化に関する専門的知識、史資料や文献の読解力などの専門的研究技能、思考力や分析力などの専門的研究能力を有し、それらの知識・技能・能力を社会に還元できる人材である。
【博士後期課程】 文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた大学院生に「博士（日本文化）」の学位を授与します。 1. 日本文化に精通し、高度な専門的知識と幅広い教養を駆使して、専門分野の研究を独自の視点から推進、発展させ得る能力を有している。 2. 日本文化に関する高度な専門的知識と幅広い教養を有し、その培った能力を、教育・研究分野における専門的な職業人として社会に還元し得る人材である。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。 （教育内容） 1. 日本文化における多面性や独自性など諸問題について総合的に把握するため、「講義科目」を配置する。 2. 「講義科目」のうちから、個別の専門分野以外の他分野の日本文化に関する8科目16単位以上を修得しなければならない。また、日本文化以外の、文学研究科内の地域社会システム専攻や欧米文化専攻や他研究科に関する科目も4単位8単位まで取得可能とする。 3. 日本歴史、日本語学、日本文学など、個別の各専門分野を総合した日本文化の研究方法を修得できるように、「日本文化研究方法論」を必修科目として配置する。 4. 大学院生が修士論文の作成に必要とする専門的知識、史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究方法を修得できるように、各分野の専修科目において、専門的講義2科目4単位、演習2科目8単位を配置する。 5. 中等教育機関の教員や博物館学芸員などの専門職や博士後期課程に進学できる人材の養成を目指す。 （教育方法） 1. 講義科目では、修士論文作成に必要とする専門的知識の習得を目的とし、講義形式の方法を採用する。 2. 演習科目では、修士論文作成に必要とする史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究能力を向上させるため、史資料・文献講読、研究発表、相互議論を取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、修士論文作成に必要な専門的知識、史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究能力の習得・向上のために、個別具体的な研究指導や論文執筆・発表の方法指導を行う。 4. 日本文化専攻を含めた文学研究科全体の中で研究発表の場を設け、指導教員以外の教員や専門分野以外の大学院生を含めた、研究議論を行う。 （学修成果の評価） 文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。

愛知大学 3つのポリシー（2024年度向け）

2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。
【博士後期課程】 文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 修士課程における日本文化に関する専門的な研究知識、研究技能、研究能力を基としつつ、博士論文作成に必要なとする高度で専門的な研究知識、史資料や文献読解などの研究技能、および思考力や分析力などの研究能力のさらなる向上を目指して、専門分野に関わる必修の専修科目の「日本文化特殊研究」4単位および「研究演習」4単位を配置し、研究指導を行う。 2. 専門分野の研究を広い視野をもって深めるため、指導教員が指導によって、専門分野に関わる専修科目以外の専門科目を修得可能とする。 3. 高等教育機関や研究機関の教育研究職員や博物館学芸員などの専門職の養成を目指す。
（教育方法） 1. 講義科目では、博士論文作成に必要なとするさらに高度な専門的知識の習得を目的とし、講義形式の方法を採用する。 2. 演習科目では、博士論文作成に必要なとする史資料や文献の読解などのさらに高度な専門的研究技能、および思考力や分析力などのさらに高度な専門的研究能力を向上させるため、史資料・文献講読、研究発表、相互議論を取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、博士論文作成に必要な高度な専門的知識、史資料や文献の読解などの高度な専門的研究技能、および思考力や分析力などの高度な専門的研究能力のさらなる習得・向上のために、個別具体的な研究指導や論文執筆・発表の方法指導を行う。 4. 日本文化専攻を含めた文学研究科全体の中で研究発表の場を設け、指導教員以外の教員、専門分野以外の大学院生を含めたさらに高度な研究議論を行う。
（学修成果の評価） 文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
【修士課程】 文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた大学卒業業者あるいは学士取得者、または大学卒業業者と同等以上の学力があると認められた方を、各種選抜試験を通じて受け入れます。 1. 求める学生らの像 (1) 本専攻進学に先立って、学部教育における一般教養と専門分野の基礎的知識を備えている人。 (2) 専攻の個別専門分野である日本歴史、日本語学、日本文学を中心に、古代から近現代に至るまで、日本文化における独自性や多面性などの諸問題について総合的に把握する意欲を有する人。 2. 入学前までに修得すべき能力 (1) 日本歴史や地理学を学習するために必要な基礎的な知識。 (2) 日本語学や日本文学を学習するために必要な基礎的な知識。 (3) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的な能力。 (4) 自分の意見などを発表するための基礎的な能力。 (5) 他者の意見などを聞き対話するための基礎的な能力。 3. 選抜方法 (1) 一般・外国人留学生入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。 (2) 社会人特別入学試験 専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。
【博士後期課程】 文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた修士取得者、または修士取得者と同等以上の学力があると認められた方を、各種選抜試験を通じて受け入れます。 1. 求める大学院生らの像 (1) 修士の学位を取得した上で、修士論文を基に、専門的な知識、史資料や文献読解などの研究技能、および思考力、

愛知大学 3つのポリシー（2024 年度向け）

分析力などの研究能力についてのさらなる向上が見込める人。

- (2) 日本文化に関する専門的な教養を有した上で、さらにそれをより広い文脈の中で相対化し、横断的に隣接諸分野へと架橋し得る柔軟性と思考力を有する人。
- (3) 日本文化に関する専門的研究をさらに高度に深め、研究者として当該分野における研究を発展させ得る能力を有するとともに、教育者として高等教育においてその能力を発揮しようとする意欲を持つ人。

2. 入学前までに修得すべき能力

- (1) 日本歴史や地理学を学習するために必要な専門的な知識。
- (2) 日本語学や日本文学を学習するために必要な専門的な知識。
- (3) ものごとを自ら論理的に考えるための専門的な能力。
- (4) 自分の意見などを発表するための専門的な能力。
- (5) 他者の意見などを聞き対話するための専門的な能力。

3. 選抜方法

外国語、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。